

朽木村民歌 作詞 上藤吉松

- 1 歴史にその名 高島の
朽木の村は その昔
近江源氏の 佐々木氏
住みにし地所と 知られたり
- 2 面積十一方里にて
戸数は八百 人四千
安曇の川上 奥深く
山は緑に 水清し
- 3 蕎麦の細道 切り開き
馬に車に 積ませたる
輸出輸入の 品しげく
産業愈々 盛んなり
- 4 進みて植えし 杉檜
里にはほゆる 牛の声
植林養蚕 発展し
輸出いやます 炭の高
- 5 ああ勤儉の 村民よ
星と月とを いただいて
家と村とを 富まさんと
務むるさまぞ 健気なる

この歌は大正末期から昭和初期にかけて朽木村長をしていた上藤吉松氏が作詞しました。この詞を当時歌われていた曲（曲名不詳、一説には北海道を紹介する曲）に当てはめて朽木村民歌としたといわれています。

朽木の歴史や自然、当時の産業の様子、そして勤勉で儉約な村民性と、家と村を豊かにするために健気に働く様が表現されています。

昭和の初めごろには、尋常小学校などでよく歌われ、また、村民運動会では、尋常小学校高等科のブラスバンド演奏（当時のブラスバンド部のレベルの高さは郡内でも有名であった）で盛大に歌い、村民の士気高揚と団結が高められました。

しかし、満州事変（昭和6年）が勃発し軍事色が強まってくると次第に歌われなくなっていきました。

朽木村民歌

作詞 上藤吉松

